

大阪・小曾根遺跡

1 所在地 大阪府豊中市北条二丁目一七九番地

2 調査期間 一九八一年(昭56)一〇月～二月

3 発掘機関 豊中市教育委員会

4 調査担当者 橋本正幸・柳本照男

5 遺跡の種類 集落跡

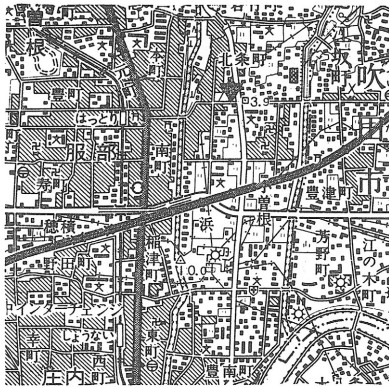
6 遺跡の年代 弥生～鎌倉時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

小曾根遺跡は豊中市の東南部にあたり、かつては小曾根村と称され、北は千里丘陵、南及び東西は河川で区切られた沖積平野、標高

約二・五m前後に立地する。

今回の調査は共同住宅建設に伴って実施したものである。検出した遺構は弥生時代前期の柱穴跡、同じく中期の方形周溝墓、平安時代後半から鎌倉時代にかけての掘立柱建物



(大阪西北部)

数棟、井戸、土壇、溝などで、弥生時代から中世にいたる複合遺跡である。

木簡を出土した土壇は平面が円形で、直径約六m、深さ約一・五mを測る大形で挿鉢状を呈している。出土した遺物は木簡類をはじめとする木製品その他、土器類、金属器、種子類などの多量の遺物が出土している。年代は今のところ大まかに十二世紀代と捉えておく。

8 木簡の积文・内容

〔蘇民将来□□□□□〕

(172)×24×6 039

(柳本照男)